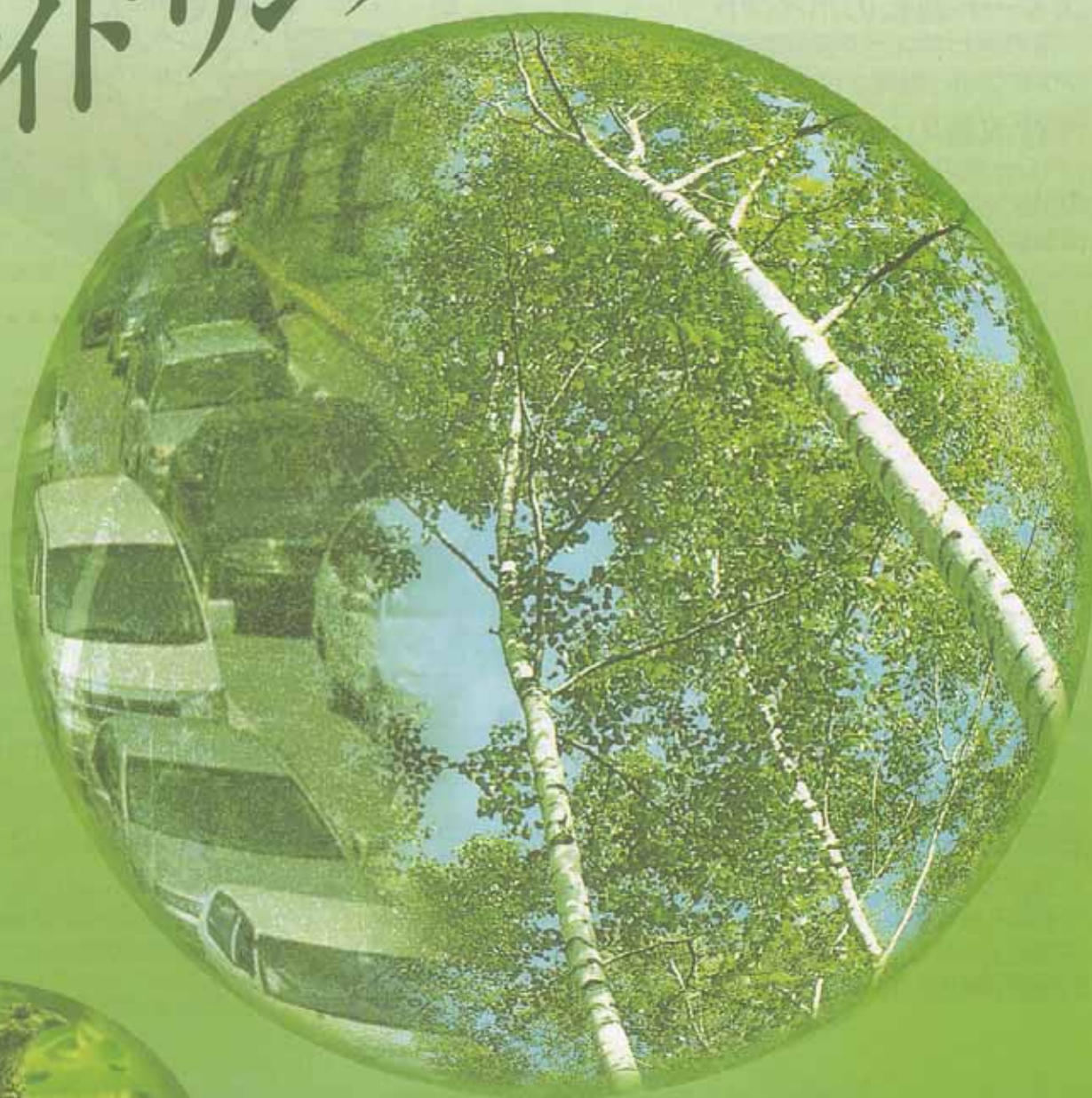


私たちが生活している地球の温暖化を防ぐため

車は低公害車 アイドリングはストップ



省エネドライブのすすめ

長野県・(社)長野県自動車店協会

1 停車中、そのままエンジンをかけ放しにしているいませんか？

不要なアイドリングはストップ！
停車中はエンジンを切りましょう。

スマート運転のポイント

待ち合わせなどで長時間停車する時にもエンジンを切ると燃費が良くなります。

燃費改善の一例

10分間のアイドリングを止めると、約140ccのガソリンを節約することができ、年間では51ℓにもなり、5,355円得になります。

※ガソリン1ℓ=105円で試算しています。以下同



2 下り坂や赤信号の手前でエンジnbrakeを活用していますか？

減速する時は、できるだけエンジnbrakeを使いましょう。

スマート運転のポイント

減速したり、長い坂道を下る時には、ギヤをシフトダウンしてできるだけエンジnbrakeを用いるようにしましょう。

燃費改善の一例

時速40kmで1分間、下り坂をエンジnbrakeを使わないで走行した時に比べて、使った場合は燃料を約15cc節約でき、年間では約5ℓになり、525円得になります。

4 タイヤはちょうど良き空気圧になっていますか？

タイヤの空気圧が適確かめましょう。

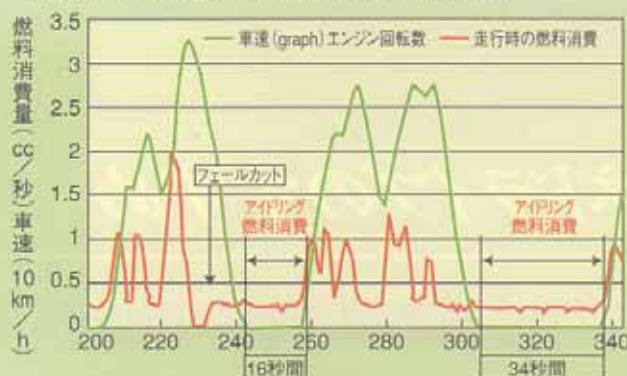
スマート運転のポイント

タイヤの空気圧は意外に燃費のほか、安全面でも重要です。適ようチェックはGS等でこまめに

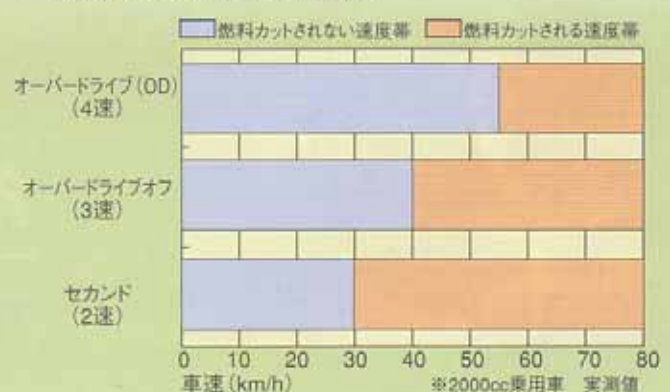
燃費改善の一例

空気圧が適正值より93kpaだったタイヤを適正な空気圧にした場合、23ℓのガソリンが節約でき、2,415円得になります。

■車両走行時の燃料消費量と速度の関係



■減速時の燃料カットと速度



車に、必要のない荷物を積んだままにいませんか？

トランクなどの余分な荷物は降ろしましょう。

スマート運転のポイント

荷物を積んだままにしておくと、加速性能を低下させ、燃費も悪くなります。いつもは使わないゴルフバッグ等の荷物は降ろしておきましょう。

燃費改善の一例

ゴルフバッグ等約10kgの荷物を降ろすと、1年間で約2.5ℓのガソリンが節約でき、263円得になります。



寒い日、暖機のため長い間エンジンをかけ放しにいませんか？

寒い日、暖機のため長い間エンジンをかけ放しにいませんか？

出発前の車の暖機運転は適切に。

スマート運転のポイント

暖機運転は、なるべく短かめにしましょう。車を使う用事は、まとめて済ますようにしましょう。

燃費改善の一例

暖機運転を4分間すると、ガソリンを約58ccも余分に消費します。1日1回(4分間)の暖機運転をやめると、1年間では約21ℓもガソリンを節約でき、2,205円得になります。

高速道路で減速・加速を繰り返す必要のないように運転を心がけましょう。

必要のない減速・加速を繰り返す必要のないように運転を心がけましょう。

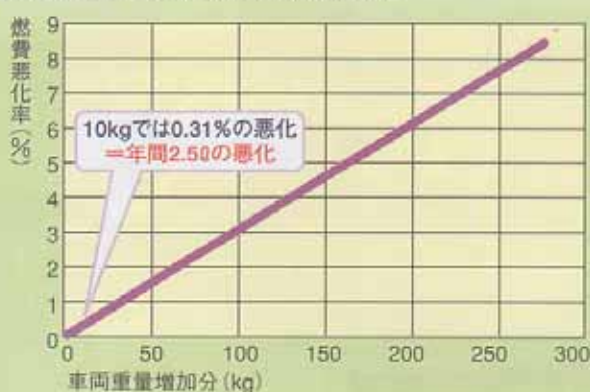
スマート運転のポイント

高速道路での減速・加速を繰り返すと燃費が大きく悪化させます。減速・加速を繰り返す必要のないように運転を心がけましょう。

燃費改善の一例

速度変化の少ない運転を心がけると、100kmを走行するときに1,000kmとする

■車両重量増加による燃費悪化率



■タイヤ空気圧と燃費(10・15モード)



6 さあ信号は青!猛ダッシュで 発進していませんか?

急発進・急加速はやめるよう
心がけましょう。

スマート運転のポイント

気持ちにゆとりを持って急発進や急加速はひか
えましょう。早めにアクセルから足を離しましょう。

燃費改善の一例

急発進や急加速は燃料を余分に消費します。急
発進や急加速を1日10回やめると、約120ccの
ガソリンが節約され、1年間で約440節約でき、
4,260円得になります。



7 急でむやみに車線変更したり、 急減速を繰り返していませんか?

急な減速・加速を避けて、
なるべく等速走行をしましょう。

スマート運転のポイント

急な減速・加速を繰り返す波状運転(加速・減速を何度も繰り返して、
速度を変動させて運転すること)は燃費を
悪くさせます。速度変化の少ない運転を心がけ

燃費改善の一例

急な減速・加速を繰り返す波状運転に比べて、
なるべく等速走行すると燃料を約220cc節約でき、年間
燃費が約2.20になり、231円得になります。

8 一般道路、高速道路での最も 経済的な速度をご存知ですか?

一般道路で時速40km、高速道路で
時速80kmが経済速度です。

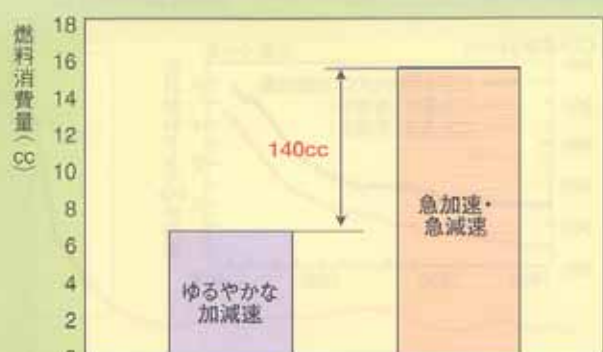
スマート運転のポイント

最も燃費が良いとされる経済速度は一般道路
で時速40km、高速道路で時速80kmです。これ
を目安に道路状況に応じて省エネ運転をしましょう。

燃費改善の一例

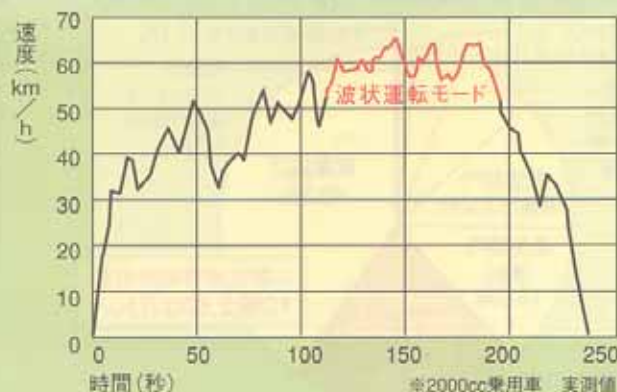
高速道路で年間1,000kmの距離を時速80km
で走行すると、時速100kmで走行した時と比べて
ガソリンを約110節約でき、1,155円得になります。

■急加速・急減速の燃料消費増加量(1日あたり)



※1日に急発進10回、急減速10回した場合で計算

■一般的なドライバーの速度変化の例



※2000cc乗用車 実測値

地球環境を考えたドライブテクニックです。

地球温暖化の原因となる 大気中のCO₂は 急激に増えています。

私たちは快適な暮らしを求めて、石油・天然ガスなどの化石燃料を大量に消費してきました。そしてこれら化石燃料を燃やし続けて、大量のCO₂(二酸化炭素)を大気中に排出してきました。大気中のCO₂が増加すると宇宙に赤外線を放出できないため、熱が大気中に留まってしまう「温室効果」が起こり、地球の温暖化が進行してまいります。大気中のCO₂濃度は、18世紀の産業革命以降急激に増加してきましたが、その増加速度は年々高まっており、とくに1990年代では、過去に例がない速度でCO₂濃度が増加しているのです。

長野県では自動車からの CO₂排出量は、全体の 約28%を占めています。

わが県の全CO₂排出量のうち運輸部門からの発生量が29.6%(2000年度値)を占めています。さらにその運輸部門の中で自動車からの排出量が占める割合は、約96%に当たります。つまり自動車は、実に長野県の全CO₂の約28%を排出させていることになるのです。オイルショック前の1970年におけるこの値は約14%でした。わずか10年前の1990年度と比較して、CO₂の排出量はエネルギー部門全体で約19%の増加、特に自動車起源は約29%と急激に増加しています。自動車のエネルギー消費量が最終エネルギー消費量に占める割合も、増え続けているのです。

※長野県地球環境課資料による

ドライバーひとり一人の、 省エネルギーへの 努力が必要です。

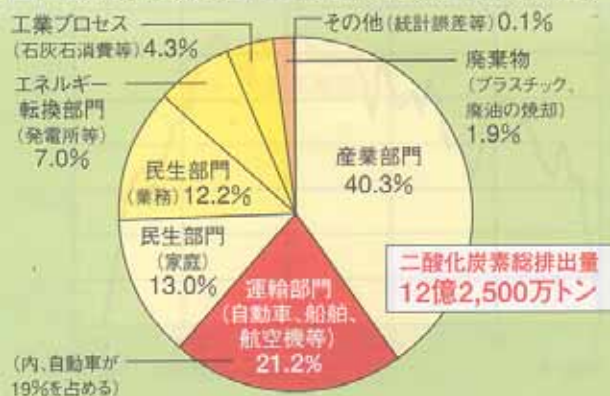
地球温暖化の問題は、年々深刻化しています。2002年、国は地球温暖化対策推進大綱の見直しを行いました。その中でとくに運輸関連におけるエネルギー消費量の積極的な削減推進が求められています。これに応えるためには、自動車を運転するドライバーひとり一人の努力がぜひとも必要です。省エネルギーに心がけ、自動車の燃料消費量の削減にご協力ください。

※地球温暖化対策推進大綱とは：1997年の第3回締約国会議(COP3)の結果を受け、2010年に向けて温室効果ガス排出量削減目標1990年比6%を達成するために、地球温暖化対策推進本部が、緊急に推進すべき対策を総合的に取りまとめたもの。

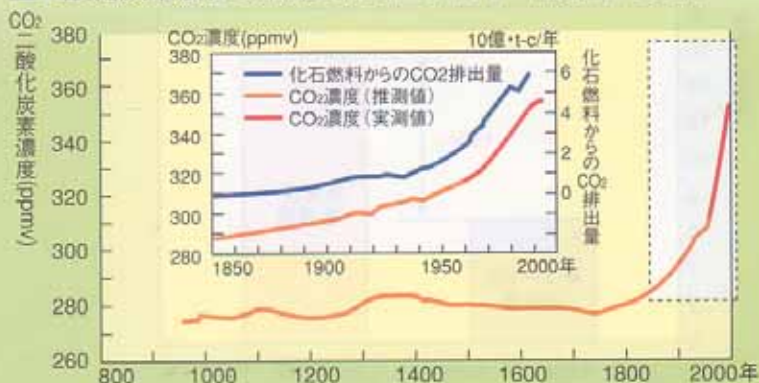
自動車の運転方法により、 燃費はこんなに 違います。

運転のテクニックによって自動車の走行燃費の優劣を競う「省エネドライビングコンテスト」が行われました(1997年)。同じコース・同じ距離を2回走るのですが、1回目は省エネ運転を意識せずに通常の運転で走ってもらい、2回目は省エネ運転の講習を受けた後に様々な運転テクニックを駆使して走ってもらいました。その結果、排気量2000ccクラスの最優秀者は1回目に比べて2回目の走行では6.6km/ℓもの燃費節減に成功。また排気量3200ccクラスでは8.0km/ℓもの燃費節減に成功しました。このように、運転方法により燃費にはかなりの差が生まれるのです。

■二酸化炭素排出量の部門別内訳(1999年度)



■二酸化炭素濃度の増加と化石エネルギー消費量の変化



環境にやさしい 低公害車

■低燃費かつ低排出ガス認定車

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく燃費基準(トップランナー基準)を早期達成(低燃費車)しており、かつ、「低排出ガス車認定実施要領」に基づく低排出ガス認定を受けている自動車です。

■ハイブリッド自動車

ハイブリッド自動車は、複数の動力源を組み合わせ、低公害化や省エネルギー化を図った自動車です。動力の位置関係により3つの方式(シリーズ方式、パラレル方式、スプリット方式)に分けられます。シリーズ方式は、エンジンに発電機を取り付けて発電を行い、電気で車両を走行させる方式です。パラレル方式は、エンジンとモータ等の複数の動力を切り換えて、または一方の動力を他方の動力が補完しながら車両を走行させる方式です。スプリット方式は、エンジンの出力を車軸への直接出力と発電機及びモータを介した間接出力とに分離し、両者を最適な比率に組み合わせ、走行する方式です。我が国では、近年、低廉な小型のハイブリッド乗用車が開発販売され、広く一般ユーザーに受け入れられています。

■電気自動車

電気自動車は、バッテリー(蓄電池)に備えた電気でモータを回転させて走る自動車です。このため、自動車からの排出ガスは一切なく、走行音も通常の自動車(ガソリン車やディーゼル車など)と比べ大幅に減少します。また、電気を作る際に、発電所から排出される分を考慮に入れても、NOxやCO₂の排出は通常の自動車より少なくなります。

■天然ガス自動車

天然ガス自動車は、家庭に供給されている都市ガスの原料でもある天然ガスを燃料として走る自動車です。中でも、天然ガスを気体のままで圧縮して高圧ガス(CNG)として利用する天然ガス(CNG)自動車が世界的に最も普及しています。天然ガスは、硫黄分などの不純物を含まないクリーンなエネルギーであり、PMや黒煙も排出されません。さらにディーゼル車と比較してNOxの排出量も抑制されています。

■メタノール自動車

メタノール自動車は、アルコールの一種であるメタノールを燃料として走る自動車です。メタノールは、都市ごみやバイオマスからの合成も可能で、リサイクル性を備えたエネルギーであり、黒煙も排出されません。メタノール自動車には、ディーゼル車をベースに改造したディーゼルタイプと、ガソリン車をベースに改造したオットタイプが2通りがあります。また、使用燃料の面からは、純粋なメタノールを燃料とするタイプと、メタノールにガソリンを混合したメタノール混合燃料タイプの2通りがあります。

Clean Energy